



こちら、三中図書館 7月号



市川市立第三中学校図書館 2020.7.1.



「ウィズ・コロナ」「アフター・コロナ」などの言葉とともに
これからの社会について、たくさんの意見があふれています。
私たちも注意深く耳をかたむけて、あれこれ考えてみましょう。

夏休み貸し出し実施します。

貸出日：7月27日(月) 29日(水) 31日(金)

貸出冊数：ひとり10冊まで

返却期限：8月21日(金)



本を返そう。

身の回りに借りっぱなしの本はありませんか？

夏休み貸し出しの前に、今借りている本を全部一度返却しましょう。

前年度から返却されていない本について、2度目の督促状を出します。手元に届いてしまった人は、とにかく図書館に足を運んでください。待っています。

雑誌入っています。

今年度も 『アニメージュ』 徳間書店

『子供の科学』 誠文堂新光社 の2点を毎月購入します。

4月号、5月号、6月号、7月号はすでに新着雑誌のラックにあります。4～6月号については、7月1日から貸し出しを始めます。

この他に生徒会の委員会活動費で、年間20冊くらいの雑誌を購入する予定です。リラックスできるもの、部活に役立つものなどを考えています。「こんな雑誌を買って欲しい」という希望をお寄せください。出来るだけ、リクエストに応えていきたいと思えます。

第66回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書

『天使のにもつ』 itoumiku / 童心社

保育園を職場体験先に選んだ中学2年生の風汰。選んだ理由は「楽しそうだから」。でも実際は力仕事もあってぜんぜん楽しじゃなくて、怠け者の風汰は初日から後悔していたのだが、他の子がなくなったすきにそっと手をつないでくる一人の男の子が気になり始めて……。風汰の5日間の成長物語。

『11番目の取引』 アリッサ・ホリングスワース / 鈴木出版

アフガニスタン難民のサミと祖父の生きる術であり、心の拠り所だった伝統楽器ルバブが奪われた。買い戻すには1か月以内に700ドルが必要だ。700ドルという大金をためるために、サミは必死に考えた。友だちを得ながら、物々交換を始めるが……。ハラハラさせられながら、ぐいぐいと読ませられる希望と友情の物語。また、難民の人々が生きる現実が胸に迫る物語でもある。ぜひ読んでほしい一冊だ。



『平和のバトン 広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶』

弓狩匡純 / くもん出版

広島の高校で美術を学んでいる生徒たちが、8月6日の広島の様子を油絵に描いて記録する「次世代と描く原爆の絵」プロジェクト。高校生たちは1年間かけて被爆の証言者に話を聞き、その人が見た光景を絵にする。何度も何度も細部にわたって話を聞き、証言者からのダメ出しも何度もくぐり抜けてようやく1枚の絵が完成する。「話を聞く」というのは実は簡単なことではないのだと感じさせられるノンフィクションです。